

革新的な放射線医学を —患者に寄り添って— Innovative Radiology close to the Patients

大阪大学 石田 隆行
Osaka University Takayuki Ishida



2019年4月11日(木)から14日(日)の4日間、パシフィコ横浜でJRC2019が開催されます。JRC2019の一環として開催される第75回日本放射線技術学会総会学術大会の大会長を拝命してから2年間で、日本ラジオロジー協会(JRC)の社員である日本医学放射線学会(JRS)、日本放射線技術学会(JSRT)、日本画像医療システム工業会(JIRA)、日本医学物理学学会(JSMP)の皆様と協働で、全員が納得のいく素晴らしい合同企画を立てることができました。また、JSRTの第75回総会学術大会実行委員会、大会開催委員会、プログラム委員会をはじめ、学術委員会、教育委員会、国際戦略委員会などの委員会の皆様と学術色豊かな魅力あるプログラムに仕上げることができたと自負しています。そして、採択された一般演題数は、口述発表が501、モニタ発表が41で、合計542演題(国内501 海外41)となり、今年も多くの新しい研究が発表され議論されることになりました。演題を提出して下さった方々に感謝することはもとより、限られた時間の中で演題審査と一般演題プログラム編成をしたプログラム委員会の皆様にも、心から感謝申し上げたいと思います。

この予稿集に掲載されている演題抄録をご覧になって気付かれると思いますが、先進的な研究や臨床に役立つ研究など、今後の学会発展を予感させる数多くの演題が含まれています。まさに、今年のJRC2019の大会テーマである「革新的な放射線医学を—患者に寄り添って—」、「Innovative Radiology close to the Patients」に相応しい大会になるでしょう。研究発表をする演者の皆様には、この学術大会の場で大いに議論をし、研究を次のステップへと進めて頂きたいと思っています。そして、その優れた研究を、是非、研究論文としてまとめ、後世に残る業績にして頂きたいと思っています。

この大会テーマには、—患者に寄り添って—という重要な言葉が含まれています。革新的な放射線技術を開発したり臨床で提供したりする場合に、この“患者に寄り添う”気持ちが欠けていると、患者が安心して受けられる医療にはなり得ません。つまり、大会テーマには、革新的な放射線医学の提供を目指している研究者・技術者とそれを高度な知識と技術で使いこなして医療を行う医療人、つまり放射線医学に関わる全ての人には、患者に寄り添う気持ちが必要であるという思いが込められています。

今大会の合同特別講演は、様々な分野で注目され話題となっている人工知能(AI)の第一人者である松尾豊先生にご講演頂きます。AIについて造詣が深く広い視野をお持ちの先生ですので、医療でのAI応用の可能性やその問題点などについて聞かせて頂けると思います。合同シンポジウムは、「Value-based Imaging: AI時代を見据えて」、「人工知能(AI)を用いた革新的な放射線医学」、「腫瘍の「顔」をとらえる —生物学的不均質性に応じた放射線治療の幕開け—」という3つのテーマを取り上げて、まさに近未来の革新的な放射線医学に関して討論する予定です。JSRTが企画担当をした「人工知能(AI)を用いた革新的な放射線医学」では、放射線医学における国内外のAI研究の現状や未来について、わかりやすく講演して頂き、議論をします。また、このシンポジウムの基調講演では、国立がん研究センター・メディカルAI学会代表理事の浜本隆二先生にAIを活用した統合的ながん医療システムの開発についてご講演をいただきます。さらに、「脳腫瘍の診断から治療まで」をテーマとした3学会合同教育セッションでは、脳腫瘍に関する診断、病理、画像検査、手術、放射線治療といった内容を系統立てて学べる場を提供したいと思っています。

上述したように、第75回日本放射線技術学会総会学術大会は、研究成果発表やシンポジウムなどの学術活動の場として期待が膨らむ内容となっていますが、同時に普段はなかなか話す機会のない同志との学術的内容にとどまらない様々な意見交換もできる貴重な社交の場でもあります。多くの方が集う年に一度の絶好の機会である第75回総会学術大会で、大いに学び、話し、そして楽しんで下さい！